

感染性心内膜炎の予防について

心臓病をもつことにもおこる合併症のひとつに、感染性心内膜炎という病気があります。この病気は、血液の中にバイ菌が入り、結果心臓の中にバイ菌が巣(菌塊)をつくっておきる病気です。診断や治療に時間がかかったり、種々の合併症や後遺症を残したり、死亡することもあり、大変にこわい病気です。

とくに原因がなくてもバイ菌が血液中にはいることもあります。抜歯・けが・手術など、出血がみられる時にはより危険が高いとされています。

したがって、抜歯の時などに適切な抗生剤の投与を予防的に行う必要があります。出血をする歯の処置や手術の際には、担当医にこの注意書をお示しください。

<抜歯など出血を伴う歯科処置の時>

- 経口投与が可能な場合
 - ①アモキシリン(AMPC)：50mg/Kg(2.0g を超さない)を処置 1 時間前に経口投与
- 経口投与ができない場合
 - ①アンピシリン(ABPC)：50mg/Kg を処置前 30 分以内に静注
- ペニシリンアレルギーがあり、経口投与が可能な場合
 - ①クリンダマイシン(CLDM)：20mg/Kg を処置 1 時間前に経口投与
 - ②セファレキシン(CEX)かセファドキシル(CDX)：
20mg/Kg を処置 1 時間前に経口投与
 - ③アジスロマイシン(AZM)かクラリスロマイシン(CAM)：
15mg/Kg を処置 1 時間前に経口投与
- ペニシリンアレルギーがあり、経口投与ができない場合
 - ①クリンダマイシン(CLDM)：20mg/Kg を処置前 30 分以内に静注
 - ②セファゾリン(CEZ)：25mg/Kg を処置前 30 分以内に静注

<泌尿生殖器・消化管(食道を除く)の手術・処置の時>

- 経口投与できる、またはアレルギーがない場合は同上
- アンピシリン・アモキシリンにアレルギーがある場合
 - ①バンコマイシン(VM)：20mg/Kg を 1～2 時間かけて静注し、処置前 30 分以内に終える

(アメリカ心臓協会ガイドライン 1997 年)

ご不明なことがありましたら主治医にお問合わせください。



榊原記念病院

